



京都市文化観光資源保護財団

会報

No.57



もくじ

あいさつ

京のよさをまもって(19)「わたしの文化財散歩」

日本ホテル協会京都支部長

寄稿「京都文化の一部を担う江州文化 不可思議」

松尾大社宮司

わたしと京の文化財(21)「京の六斎念仏 その技術伝承に取り組んで」

六斎連合会技術分科会幹事

目で見る京の文化財(27)「文化財の樹木」

京の伝統行事芸能(27)「岩倉の火祭」

寄稿「鞍馬寺とわたし」

保護財団の活動

理事長 上山 善紀 P 2

福持 通 P 3

中西 守 P 6

橋本 治夫 P 8

山路 興造 P 10

山路 興造 P 12

曾根 祥子 P 14

曾根 祥子 P 16

会報題字 理事長 上山 善紀

表紙 西本願寺のイチョウ

(京都市指定天然記念物)

会

報

No.57

1990. 11. 1

編集・発行

財団

京都市文化観光資源保護財団

法人

京都市左京区岡崎最勝寺町京都会館内

〒606 電話 075-752-0235 (代)



ごあいさつ

財団法人京都市文化観光資源保護財団
理事長 上山 壽紀

前理事長佐伯勇氏のご逝去に伴い、本年4月、図らずも理事長を拝受することになりました。

佐伯前理事長は長年関西財界のリーダーとしてご活躍の傍ら、本財団の設立推進にあたられ、発足以来今日まで20年の永きにわたり理事長として本財団の発展にご尽瘁されました。ここにそのご功績に対し深謝いたしますとともに、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

さて、日本の文化を育み今日に伝える千年の古都京都には比類ない歴史と伝統の厚味があります。また、私にとっての京都は、大学時代を過ごし、青春の思い出を刻んだ場所でもあります。この国際歴史文化都市京都の文化観光資源を守り、広く内外の人々に京都の良さを知悉していただくため、微力ではありますが本財団の事業活動の一層の充実に努力する所存でございます。

ご高承の通り、本財団は京都市域の文化観光資源を保存育成する目的で各界の方々のご賛同とご協力を得て、全国からの寄金をもとに、昭和44年12月に設立されたものであります。爾来、この趣旨のもと京の四大大行事を始め諸伝統行事・芸能の保存執行への支援や文化観光資源を守り育てる思想の普及を鋭意図ってまいりました。

京都市ご当局、関係の皆様方の熱意とご尽力のお蔭をもちまして多くの成果をあげてまいりました今日の姿をみるにつけ、本財団の意義と役割の大きさを改めて確信する次第であります。

来る1994年には平安建都千二百年を迎えます。先人から受け継いだ京都の貴重な文化観光資源を継承・保存しながら21世紀に伝えていくため、全国の皆様方には今後とも暖かいご理解とご支援をお寄せいただきますよう衷心よりお願い申し上げます。

京のよさをまもって (19)



わたしの 文化財散歩 福持 通

米国の未来学者J・ネスピッツ氏は、来るべき21世紀は芸術的な生活や精神的な価値が一層喜ばれる時代になるであろうと予測しています。

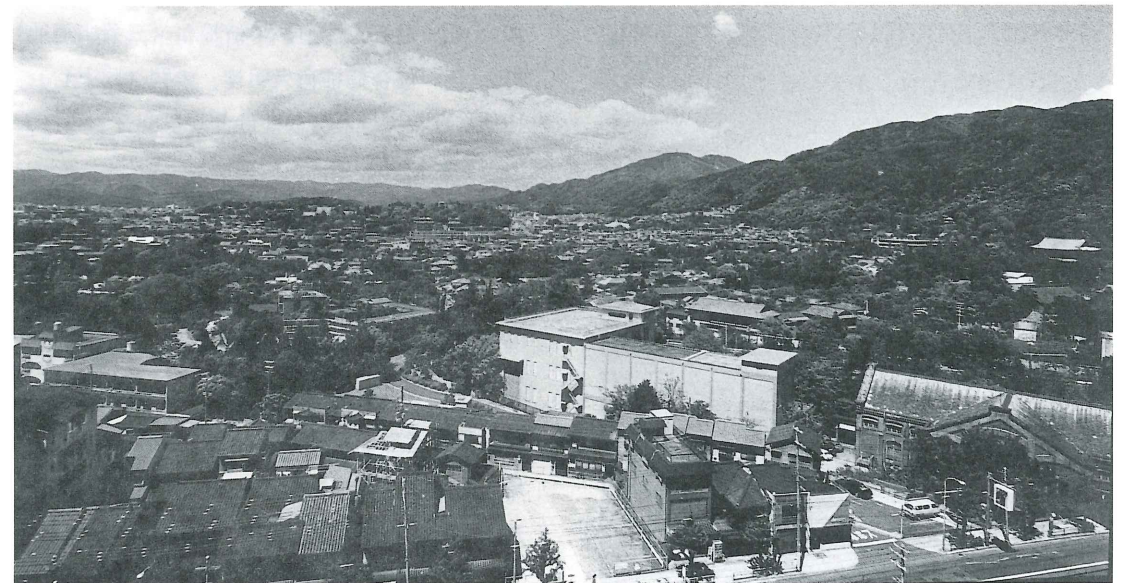
そうであれば、世界的な文化財に恵まれた京都としては、貴重で豊富な有形無形の文化財を大切に保護育成し、世界の人々に、末永くまた容易に鑑賞していただけるように心がけることが、ますます重要になってくるのではないのでしょうか。

私たちホテル業にたずさわっている者は、そんな願いをもって京都を訪れるお客様に満足のいただけるご案内ができるよう、一層努力を重ねなければならないと思っています。

私は、都ホテルに着任早々、執務室に市内地図とジョギングシューズを持ち込みました。少しでも暇があればホテル周辺を歩き廻って、有名な寺であれ、無名の小道であれ、古い石造物であれ、自分の眼で確かめておこうという考えからです。ほんの1時間足らずの散歩でも、さすがに歴史の古い土地柄ですから、ささやかな遺跡から古い人や時代がしのばれる、私の知らなかった新しい発見があったりして、まことに楽しいのです。

日頃見慣れた風景も、非日常的な目つまり旅人的な感覚で眺めると全く異なって見えるといいますが、そのうえこのようにして実地に自分で確かめておくと、お客様から散歩のご相談を受けたりしたとき、通り一遍でない細やかなご案内をすることができて喜ばれ、私にとってはまさに一石二鳥なのです。

以下都ホテルからほんの数分から20・30分以内の、私が訪ねた新旧文化財の数々をご案内し



京都市街 東山の眺望

ましよう。

1. 水力発電事業発祥地 石碑（ホテル前）
関西電力㈱ 蹴上発電所構内ヒマラヤ杉の下、通常閉門されていて外から覗く。
2. インクライン 傾斜鉄道（ホテル東前）
全長 582 m、勾配 1/10、線路上に三十石舟を乗せた台車が展示されている。
3. 疏水記念館（ホテルから 5 分）
測量図、文書、工事絵、道具類、ベルトン水車やスタンレー発電機等が展示。
4. 疏水公園（ホテル東陸橋を渡ってすぐ）
田辺朔郎博士の紀功碑、銅像、導水管（径 1.65 m）、インクライン滑車（径 3.2 m）、殉戦者慰霊碑等がある。
5. 田辺博士墓（疏水公園から東へ 15 分）
大日山墓地奥にあり、墓石の側面に「希英魂留本市 京都市長」の刻文あり。
本年は、この疏水開通百周年、都ホテルの前身である吉水園も、この通水式の日に合わせて



インクライン(京都市指定史跡)

開園したことから、当社も本年 4 月 8 日に創業百周年を祝いました。

6. 与謝野晶子歌碑（ホテル東隣）
蹴上浄水場構内庭園にあり、「お目ざめの鐘は知恩院聖護院出でてみたまえ紫の水」を自然石に刻む。入場許可要。
7. 井上候詩文碑（ホテル裏山上・25 分）
將軍塚展望台駐車場奥の国有林中にあり、碑文には、「天懸海外三千界 月渡人間幾百州 候爵井上世外」とある。
8. 疏水運河のうち水路閣（南禅寺内・10 分）
煉瓦造アーチ構造、14 スパン、延長 93.2 m、幅 4.1 m、水路幅 2.4 m。
9. 嵯峨天皇中宮栗田山陵及び龜山天皇分骨所（南禅寺山内・10 分）
名庭園で有名な南禅院横の山中にあり、女性らしく優しさのある簡素な御陵。
ホテルから北へ 10～15 分の岡崎公園界わいとそ
の道中には、
10. 「三条通東大津道」の道標石（三条広道通）
11. 「正一位合槌稻荷大明神」の祠（同上）
12. 富樫 実作「空にかけける階段 88 II」の巨大な石彫刻（市立美術館前庭）
13. 吉田松陰先生詩文碑（府立図書館前庭）
14. ドクトル・ワグネルの顕彰碑（同館隣）
15. 市制百周年記念モニュメント（タイムカプセル）石造物（市勧業館前庭）
16. ヴァラス噴泉「パリ―市より寄贈」の噴水女性像（市伝統産業会館前庭）
ホテルから西南へ 10～15 分の道中では、
17. 仏光寺本廟石標柱（三条通）
18. 栗田焼発祥之地石標柱（栗田神社参道内）
19. 鍛冶神社祠と明治天皇御製石碑（同上）



水路閣(京都市指定史跡)

20. 親鸞聖人得度聖地石標柱（青蓮院前）
21. 史蹟青蓮院旧假御所石標柱（同上）
22. 同御所土手の楠巨木 4 本（同上）
23. 花園天皇十楽院上陵 標示板（同上）
24. 戦友の歌 記念石碑（良正院門前）
等々、数えあげればきりがありません。

疏水開発を設計監督した田辺さんは、就任したのが弱冠 23 才、完工通水式時が 28 才、また下関九州海底鉄道トンネルの最初の設計者であり、昭和 19 年に 84 才で没くなったことを墓碑銘で知りました。

また詩文、歌碑等によって表わされたご本人はもとより、その発起人、設立者等の関係者に至るまで、必ずといっていいほど従二位勲一等子爵何某などと位階勲等や爵位が刻まれているのも、それぞれの時代を感じさせます。

碑の裏面の銘や趣意書の中からもさまざまな興味深いことが読みとれます。前記 17 の仏光寺標柱の寄贈者は有名な庭師小川治兵衛で、昭和 4 年とあり、同氏の墓も同廟墓地にあります。18 の栗田焼発祥の文字は、青蓮院門主東伏見慈治師の筆。20 の親鸞聖人の石柱は紀元二千六百年建之とあります。24 の「こ、はお国を何百里

櫻井忠温書之」の歌碑は珍らしく肩書無しで、裏面には「戦友の歌を通じて真下飛泉氏を追慕する者一千八百二十四名建之 昭和 2 年 11 月 3 日」と刻してあります。何となく満州の夕陽とあのメロディがじわーと心に浮んでくるような碑です。

都ホテルの敷地内にも、江戸期の花洛名勝図会や竹村氏の昭和京都名所図会に記載の、平治の乱で華々しくこの地で戦死した首藤刑部俊通の石碑（享保 4 年建立）や、平安期に京都御所からその灯火が望まれたという御百稻荷神社があり、「古川の水上に涌く泉こそ萬病に効くの水なり」と記した「菊の水」の石碑も和室別館佳水園の傍に保存されています。

これらの文化財や観光資源を調べ、都ホテル周辺の散歩案内を編集して、既刊のジョギングコース案内と併せてお客様にご利用していただこうと思っています。趣味の散歩が文化財の宝庫である京都という地の利を得て、どんどん広がって行くことに喜びを感じつつ、これからも私は文化財散歩をつづけて参ります。

（日本ホテル協会京都支部長
株式会社都ホテル社長）



明治時代の吉水園の名残りととどめる都ホテル佳水園庭園

「寄稿」

京都文化の一部を担う江州文化

不可思議

中西守

“老ふる迄 神に仕へて麻衣九江、

私の居間の入口に常に掲げられていた暖簾だが、9年前、豊明市の小さな建売の家から今の松尾の職舎に移った際、どこかに仕舞い込んでしまったのである。私等老夫婦の抜け殻には、末娘夫婦 系3人との5人が入り込んだので、そんな大人の俳句には気がとどかない毎日の忙しい生活である。

そこで厚かましくも作者で贈り主である、故富岡盛彦翁のお孫さん茂永さんにお電話して、前記の御作品をはっきり聞きたかったのである。いたゞいたのはこれから語る翁がお遊びにお多賀さんへ参拝された時、直接頂いたものである。紺色木綿地に実に枯れることなく水々しい温かみのある文字を白地抜きしたもので、その上、俳号九江は私がかつて終戦の御詔勅を謹んで拝したなつかしい長江の岸辺の町の名である。すべて私のお気に入りの家宝である。昭和も40年代の冬、小生権宮司御奉仕中、富岡翁が三浦宮司さんの御招待で湖国の多賀大社へ参拝された。

第一の目的は、福岡県御出身の先生の御先祖のお一人である遠藤喜右衛門尉直経殿が、戦死なさる7ヵ月前にお多賀さまに奉納された三十六歌仙絵を拝見されること。その二は、弟子で美人の書家浜田春湖女史が大阪に分教場を持っているので折を見て関西神社界の雄、三浦重義宮司さんに目通りさせておきたいとのこと。第

三には、米原より更に北国である長浜で唯今、脂の乗りきった湖国の冬の珍味「鴨鍋」を一風変った老舗「鳥新」で御賞味願う。その三つの目的であったかと思う。

さて、多賀大社の数ある宝物、奉納品の中でも最も衰れにして悲しみの心が籠る文化財とそれに纏るお話について、大阪の学者森暢先生等から承った詳しい御話を極く簡略にさせていた。この歌仙絵は奉納当時は恐らく大拝殿に掲げられ、江戸時代になって屏風六曲一双に粘布されたものであろう。この歌仙絵には最終の曲面の中務の優美な姿の上部に、

奉掛之 遠藤喜右衛門尉直経敬白

永禄十二年十一月吉日

とあって四百年以上の昔、浅井長政麾下の勇将の一人が歌心豊かな歌仙絵を奉納しているのである。何度もうが、奉納者遠藤直経は浅井長政の股肱の臣の第一人者。湖北姉川での信長、長政の雌雄を決する戦では、彼は唯一騎群らがる敵の雑兵を蹴散らし、蹴散らし、終いに総大将の信長の姿を咫尺の間にとらえ、今一步という処で壮烈な戦死をとげられたのである。その勇将遠藤喜右衛門尉殿が、富岡八幡宮宮司富岡盛彦先生の九州の御実家の御先祖のお一人なのである。御実家のいい伝えは、子供の頃から御存知であったが、収蔵庫に展観された実物を拝見するのは初めてだと申され、特に最後の個所二行

の「奉掛之云々」の二行の部分は低いお声を出してしみじみとしたお気持ちで読み上げられていた。暫くの沈黙が続いて「姉川の戦は元亀元年六月だったのですから御戦死七ヶ月前の冬、この優美な心の一杯詰った文芸の華を平和の、そして寿命の神様にさ、げられたとは吾が祖先なると、涙が出てたまりません。」と力強いお声で申されるとしばらく目を閉じられた。

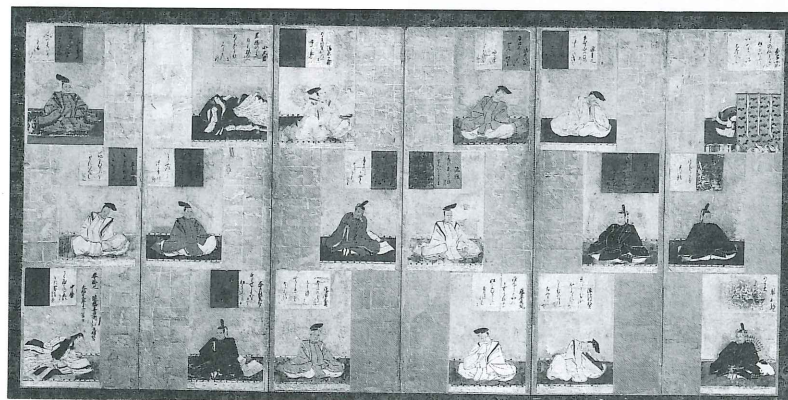
それから長浜の「鳥新」へ車を走らせたのであるが、車は湖岸を走っているのを途中右手の北国街道へ出て、姉川にかゝる橋の上を走って当時の熾烈な戦のあとを偲ぼうということになり橋を渡り、川に沿った小道を上流へ少し入って皆んな車の外に出た。いい伝えでは、この日の合戦で命を落とす者、敵味方合して数千人、その流血で川は数日間赤黒く濁りつゞけたという。

今は、何の変化特徴もない大粒の白味の勝った小石が堆積している河原が続く平凡な眺めである。だが心なしか、その平凡な河原をじっと見詰めていると何処からともなく、血の臭と四百年も昔、散び散った黒く変色した血があそこにも、こゝにも散り着いている様な錯覚を覚えるのであった。湖からの冬の風はきびしい、感慨

深げにあたりを歩かれる富岡長老に湖の伊吹風の強さを理由に早々に車に御もどり願って、いよいよ「鳥新」の座敷に急行した。

「鳥新」の鴨すきであるが、三つほど特徴がある。第一に骨付きのガラの叩きの細かさ、第二にくすんだ銀色の金属の鍋は凡て細かに手打ちで自家製であること。第三に普通の店の女中さんならば適当にお客さん自身に煮汁を作らせ肉を入れさせ、野菜など具の類を思う様に入れさせるが、この姉さんは、頑なに初めの材料が煮えるまでお客の箸は一切料理に触れさせない。一寸でも手伝うと大変な剣幕で叱責される。いざ食して見ると仲々どうして大した美味である。九州生れで深川住いの老先生は、この一事に徹した気持さっぱりの姉さんの気性に痛く感心せられた御様子であった。以上長い前文、以下短かい本文。伊吹風の中で母方の家の祖先遠藤喜右衛門大將をはじめ遠い昔の敵味方共々の霊を伏し拝んでいた二日後に屏風絵の文化財指定書が滋賀県から届けられたのである。私の七十年の生涯のうちの、第一の「不可思議」であると今も思っているのである。

(松尾大社宮司)



六曲屏風「三十六歌仙絵」 蔵：多賀大社(滋賀県)



京の六斎念仏

—その技術伝承に取り組んで—

橋本治夫

いつの頃からか、国体の開会式に開催地の代表的な郷土芸能が披露されるようになり、日本各府県を一巡して一昨年開催された第43回の京都国体では、開会式に演ずる郷土芸能を、京都の数ある伝統芸能の中から、六斎念仏踊りの、「土蜘蛛」のクモノスをまくところを中心として、それに獅子舞いを配することが決定し、これに出場した六斎保存会の8団体が、広い西京極グラウンドの8カ所に散開して、力いっぱい各々の技術で4分間の演技を披露しました。

これを契機に各団体の若い演技者の間から、もっと他の保存会のことを知りたいので、各団体固有の技術を公開しあったらどうだろうとい



六斎念仏の各保存会が共同で後継者の養成にとりくんでいる（写真は、六斎連合会技術分科会でのクモノスの実演講習）



京都の代表的民俗芸能「六斎念仏」
（写真：中堂寺六斎念仏）

う声が出始めました。現在のプログラムの内、芸能性・大衆性をもった曲目は、大部分江戸中期から明治初期にとりいれられたものであり、常に観衆を最後のプログラムである獅子舞いまで引き止めておくべく、一つ一つの曲目を時間を掛けて工夫をこらし、各団体の固有の技術として完成させたもので、他の団体に公開するというようなことは昔では考えられなかったことですが、現在ではそのことよりむしろ後継者養成による各保存会の維持・継承が共通の問題で、

とくに獅子では獅子を演ずる後継者がいないという問題、密閉の袋の中でアクロバチックな演技をするためか若い内に腰を痛める人が多く、獅子演技者の寿命が短いといった問題があるために、獅子についてノーハウの交換をすることになりました。

獅子舞いの演技は、地廻り・小便遣り・腰孔雀・肩立ち・二丁返り・蚤取り・股抜き・碁盤乗り等があるのですが、六斎の獅子舞いというのは日本各地にある獅子舞いとは異なり、胴袋は完全密閉型

となっていて獅子の2人の演技が外からは一切見えないため、第1回目の技術分科会では初めて他の保存会の人達の前で袋を被らない演技を公開したので、参加した獅子技術者との間に活発な意見交換があり、予定時間をオーバーする程の盛況でした。第2回は参加団体も人数も増え、再度獅子の技術交換を行った他に、土蜘蛛の演技とクモノスのつくり方の実演を行いました。これは、各団体でクモノスづくりを担当している人にとって非常に有意義であったとの評判でした。

現在、各保存会の抱えている最大の悩みは後継者不足であり、戦後一旦復活した20に近い団体が半数以下に減ったのは、その後継者不足のなにものでもなく、昭和58年に国の重要無形民俗文化財の選択を受けた六斎念仏踊りの団体が、今後一つでも欠けることのないように勉強会を



六斎念仏で演じられる獅師舞いの演技は、高度の技術が必要とし、後継者の養成が急務とされている。

開催したりして維持・伝承に努めたいと考えておりますので、皆様方の深いご理解とご協力をお願い申し上げます。

（京都中堂寺六斎会代表幹事）
（六斎連合会技術分科会幹事）



六斎念仏の代表的曲目「獅子と土蜘蛛」

文化財の樹木

京都市域には、有形無形の文化財が数多く伝えられていますが、それらと同様に数百年間の歴史のなかで残されてきた文化財に天然記念物があります。

そのなかでも、特に樹木は生育に適した気候条件が必要であり京都の歴史を知るうえで貴重な文化財であるといわれています。

今回の目で見る京の文化財は、京都市の文化財として指定登録されている天然記念物のなかから主な巨樹名木をとりあげご紹介いたします。



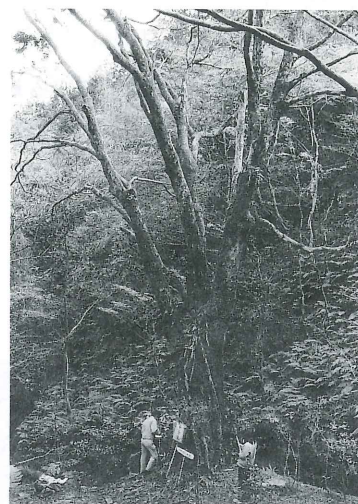
大徳寺総見院のワビスケ

(京都市北区紫野大徳寺町) 秀吉が千利休から譲り受けて植えたものと伝えられているもので、樹高6.4メートルの古木。



鹿苑寺(金閣寺)のイチイガシ

(京都市北区金閣寺町) 金閣寺の参道にある2本の巨樹で、ともに古い歴史を伝えており樹高約20メートルの貴重な古木。



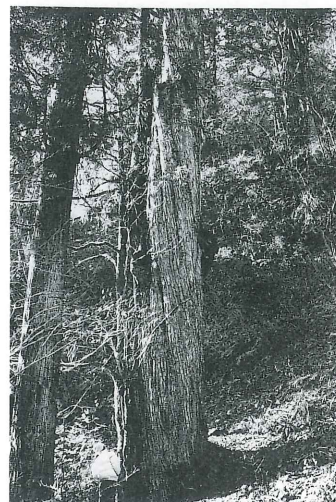
古知谷のカエデ

(京都市左京区大原古知平町) 洛北大原にある古知谷阿弥陀寺の南にあり、カエデが多いこの周辺にあって最大、最古と考えられる樹高19.2メートルの古木。



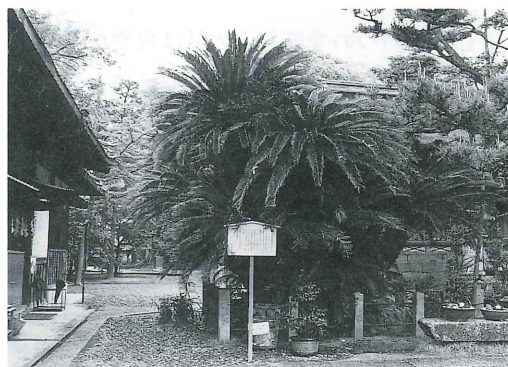
本願寺(西本願寺)のイチョウ

(京都市下京区堀川通花屋町)
「水吹きイチョウ」とも呼ばれ、樹齢約330年以上、樹高11.8メートルで各四方に樹冠の広がりを誇る老木。(表紙写真掲載)



貴船神社のカツラ (京都市左京区鞍馬貴船町)

貴船は、古来の自然林が残されているところであり、なかでもこのカツラは樹高39メートルの貴重な巨樹で京都市内では最大のもの。



金剛王院(一言寺)のヤマモモ

(京都市伏見区醍醐一言寺裏町) 醍醐寺の境外塔頭である当寺の境内にあり、樹高9.2メートルで江戸時代の記録が残されている古木。



松尾大社のカギカズラ野生地 (京都市西京区嵐山宮町)

カギカズラは、暖温帯の植物で京都市域に分布することは珍しいとされている。当社の歴史とともに生育してきた野生の樹木。

御香宮神社のソテツ (京都市伏見区御香宮門前町)

当社の境内にある雌雄一对の古い大株で、防寒の覆いなしに越冬し、開花結実する樹高3.5メートルの貴重なソテツ。

参考文献

- ・京都市文化財ブックス第1集「京都の木」
- ・「京都市の文化財第1～7集」

京都市文化観光局文化財保護課発行

京都市文化財ブックス第1集

「京都の木」



京都市の天然記念物に指定、登録されている樹木を中心に詳しく紹介した京都市文化財ブックス第1集「京都の木」が京都市から発行されています。

今回、当紙面でその一部をご紹介しましたが、会員の皆様でご希望の方は1,000円(送料260円必要)で頒布しておりますのでお申し込み下さい。

「寄稿」



鞍馬寺とわたし

曾根祥子

竹伐りに火祭り、牛若丸と兵法を授けた鞍馬天狗、もしくは貴船へぬける鬱蒼としたハイキングコース……鞍馬山とその懷に抱かれた鞍馬寺と聞いて、一般の人が思い浮かべるのはこの程度のことではなかろうか。

私自身、それを越えた像を心のうちに結べないままに鞍馬寺の人となつて、早や12年が過ぎた。参拝者の利便のために本殿へと至る新参道は、ケーブル・カーの道には石を敷きつめて整備されているが、そこを除けば全く手つかずの自然が残されている鞍馬山にて、自然に包まれ、自然と調和しての山暮らしである。

寸分の狂いなく繰り返される四季のめぐり。永く厳しい山の冬、一面の雪が早朝の陽の光を受けて、まるで金剛石を散りばめたように輝く



木の根道

清らかさ。雪を少しずつ溶かして遅い春の訪れ、追り来る夕闇に三日月と爛漫の桜がほの白く浮かぶ価千金の黄昏どき。日中の強い日ざしが夢か幻のように静もる夏の夜、漆黒の闇が全山を覆う。高く青く澄んだ空から音もなく落ちて紅葉した木々を濡らす北山時雨は、いつしか白い雪になっている。

そして、いつの季節も山の気は爽やかで清々しい。その中で心は清められ、身に活力が満ちる。人間だけではない。すべての生き物が山の氣に包まれ活動し、安らぎ、やがて大地に還ってゆく。この自然界の規則正しいめぐりが山の氣を一段と澄ませる。

心身ともに限りなく近づきながら、一輪の花に、一羽の鳥に接すると、花の生命が、鳥の心が観えてくる。石やものにさえ、生命や心が感じられる。互いの生命を共感した時、そこに祈りの世界が開ける。

鞍馬山の豊かな自然は祈りの心を育み、敬虔な祈りの心が自然を守り継いで来た。そして、その信仰と自然が1200年の鞍馬寺の歴史を培い、多くの文化財を今に伝えている。さまざまなしきたりを残す竹伐り会式を支えるのは祈りの心、初夏の



鞍馬寺境内

鞍馬なればこそその行事であり、自然がみごとにアラベスクを描く木の根道は、古来より祈りの道でもあったことに心を運んでほしい。鞍馬山と鞍馬寺は、自然と祈りと歴史が密接に関わり合いながら今に息づく所であり、人も虫も草も……すべての生命が安らぐ場なのである。

金ピカの80年代と言われたこの10年、ハイテク技術が、情報化が飛躍的に進み、世のさまは一変した。しかし、それらとは無縁の山の素朴な暮らしの中で、時代が便利さ、快適さと引き替えに失ってしまったものとじっくり向き合っ

て来られたように思う。師と仰ぐべき人と、自然とめぐり合い、すべての調和の中に生かされ



鞍馬竹伐り会式

ている有難さを教えられた……唯ただ感謝の念あるのみの今日この頃である。

(鞍馬寺学芸員)

京の主な年中行事 (11月～12月)

11月

1日	亥子祭 (午後5時)	護王神社
1～30日	七五三詣り	市内各神社
3日	曲水の宴 (午後2時)	城南宮
3日	狸谷不動院秋季大祭 (午後1時 修験山伏・稚児行列) (午後1時30分 柴灯大護摩祈禱厳修)	狸谷不動院
5～15日	十日十夜別時念仏会 (5～14日 午後6時～7時 十夜念仏) (15日 午後1時 結願)	真如堂
8日	火焚祭 (午後1時)	伏見稲荷大社
10日	上卯大祭 (午前11時30分)	松尾大社
11日	嵐山もみじ祭 (午前10時30分～正午)	嵐山渡月橋付近
14日	火焚祭 (午後3時)	新日吉神社
15日	法住寺大護摩供 (午後2時)	法住寺
16日	火焚祭 (午後2時)	恵美須神社
23日	火焚祭 (正午)	車折神社
23日	もみじ祭 (午後2時)	地主神社
23日	筆供養 (午後1時 稚児行列) (午後2時 筆供養)	東福寺正覚庵
23日	秋の業平塩竈まつり (午後1時)	十輪寺
26日	御茶壺奉献祭 (午前11時)	北野天満宮

12月

1日	献茶祭 (午前10時)	北野天満宮
3日	終い大国祭 (午後1時)	地主神社
7・8日	大根だきと成道会法要 (午前10時～午後4時 大根だき) (8日 成道会法要 午後1時)	千本釈迦堂
8日	針供養 (午後1時)	法輪寺
8日	針供養 (午後1時)	針神社
9・10日	鳴滝の大根だき (午前9時～午後4時)	了徳寺
10日	終い金比羅	安井金比羅宮
14日	義士まつり (午前10時 毘沙門堂出発)	山科
14日	義士会法要 (午前11時)	法住寺
21日	終い弘法	東寺
25日	終い天神	北野天満宮
25日	御身拭式 (午後1時)	知恩院
31日	おけら詣り	八坂神社

※都合により行事が中止又は日程が変更される場合があります。



岩倉の火祭

山路興造

洛北の火祭といえば、誰しものが10月22日夜に行われる鞍馬のそれを思い浮かべる。同じ日の昼間、都大路に繰り広げられた華麗な時代祭の興奮が覚めやらぬままに、鬱蒼とした杉木立を照らして勇壮にもみあう夜の鞍馬の火の祭典は、京都が秘める歴史の多様さ、深さを思い知らせてあまりある。

その同じ10月22日の深夜。というより23日の早朝といった方が実情に近いが、同じ洛北の岩倉でも、火祭が行なわれているのを知る人は少ない。



10月22日の深夜におこなわれる岩倉の火祭。石座神社境内に2基の大松明（約8m）に点火される。



今でこそすっかり宅地化が進み、京郊農村としての面影は薄れつつあるが、岩倉の鎮守石座神社は、元慶4年(880)に従五位下が授けられた(三代実録)古い歴史をもつ。といっても江戸時代以前の石座神社は、現在の岩倉川西岸に自然の巨岩をご神体として祀る山住神社のことで、大雲寺の東隣に鎮座する現今の石座神社は、八所明神社・十二所明神社と姓ばれる大雲寺の鎮守社であった。

もっとも江戸時代後期には、巨岩をご神体とするばかりで社殿のない石座神社は、村の産土として祭祀するには不適と考えたらしく、社殿のある八所・十二所明神社を岩倉の鎮守とし、本来の石座神社はその御旅所とされていた(文化二年調書)。

江戸時代の祭礼は9月15日で、神器を

頭に載せた新嫁の尻を、小枝で叩く尻叩き祭りとして知られていたが(日次紀事)、明治以降は10月23日に変わり、二基の神輿が御旅所(山住神社)に渡御。桜の馬場では競馬が、神前では奉納相撲が行われた。現在でも石座神社の祭祀は、旧岩倉村の上蔵町・下在地町・忠在地町・中在地町・西河原町・村松町の六町が宮座組織で取り行っており、火祭りもこの宮座行事の一環として行われる。

拝殿の石段下、鳥居を潜った両側に吹き抜ける小屋が建つが、そこが前記各町の宮座行事が行われる仮屋で、右側が東座で、手前から下在地・忠在地・西河原。左側が西座で、上蔵・中在地・村松の順に並ぶ。このうち神供役を勤める西河原と村松の仮屋には囲いがなされている。

深夜二時頃。当番の町を最初に、各町の座員が餅や白酒など、それぞれ所定の供え物を古式通りに籠や木箱に入れて参集。神前に供えたあと、それぞれ自分たちの仮屋に入って飲食をとにする。古式の宮座行事である。

火祭に使う大松明は二本。長さ五間、周り五尺程で、西座の中在地と東座の忠在地が一本宛で準備し、仮屋の前に寝かせてある。松明を縛りあげる結ぶ目が、平年は十二、閏年は十三という。

各座の行事が一段落した三時前、中在地・忠在地の者が神前より火を貰い、松明に点火するが、鞍馬のように松明を担ぐような派手な勇壮さはない。火が燃えているうちに、西河原と村松が調理した神が神前に供えられ、神事や巫女舞が行われる。

この松明は、かつての岩倉の里に現れ村人を



岩倉火祭は、古い宮座組織の行事の形態を伝えている。写真は、神前に供え物をする献饌。



古式の宮座行事がおこなわれる仮屋困らせた二匹の大蛇をかたどるという伝承があるが、松明行事を大蛇退治に結びつける伝説は各地にあり、その多くは、この種の行事が鞍馬の竹伐り会などと同様に、修験者の験競べに由来することを教えている。

燃え盛った松明の火がようやく燃え尽きる頃、遅い秋の空が明け初め、早朝の村に神輿が担ぎだされていく。

(京都市歴史資料館主幹)

保護財団の活動

京都の文化財をまもる保護事業①

甦った名庭

知恩院方丈庭園

当財団では、平成元年度の保護事業として京都市東山区の名刹浄土宗総本山知恩院の方丈庭園の復元整備事業に助成をおこないました。

知恩院は、法然上人を開基とし現在の伽藍は、江戸時代初期、徳川將軍家の庇護のもと整備されたもので三門、本堂（御影堂）、大方丈、小方丈などが重要文化財に指定されています。

今回、復元整備された庭園は、大方丈、小方丈に対する池庭で「都林泉名所図会」（寛政11年＝1799成立）にも所載されている江戸時代初期の名庭で、寛永10年（1633）の大火で焼失した伽藍の再建時に造られたものと伝えられています。

庭園は、大方丈東南隅にある石橋によって南北に大きく分けられており、池の中央に中島が築かれ中心景となるところには紀州産の青石が用いられるなど名石が配石されています。

又、山裾には堂々たる滝石組が築かれており、

現在は枯滝となっていますが見所の一つを構成しています。

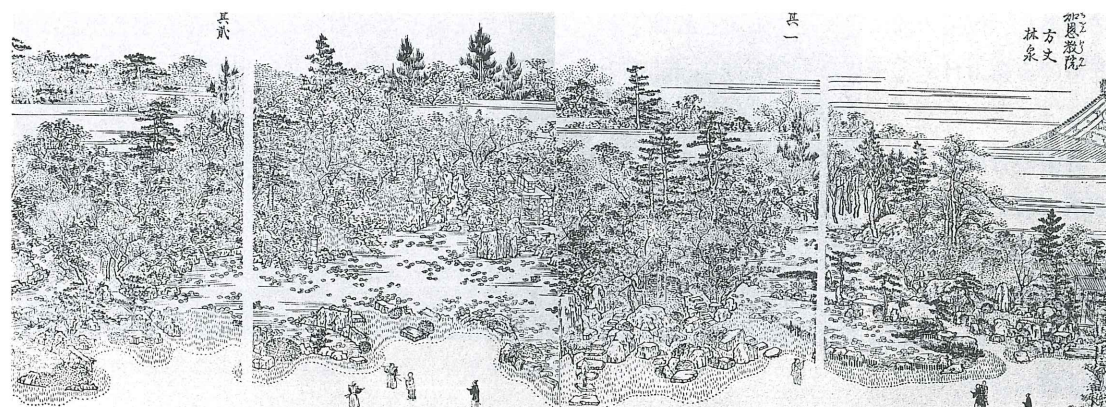
長い年月により池の護岸石組が崩れるなど荒廃していましたが、このたびの復旧工事により復元され往時の姿が甦り、京都の新しい観光資源として一般にも公開されることになり、又、江戸時代初期の貴重な庭園としてこのたび京都市の名勝庭園に指定されました。



知恩院方丈庭園



庭園東側



「都林泉名所図会」（寛政11年成立）にみる知恩院方丈庭園

募金にご協力いただき ありがとうございました

寄付者芳名録（敬称略）1.6.22～2.2.20

—法人及び団体の部—

〔特別会員〕

※三菱信託銀行株式会社	<1,650万円>
※東洋信託銀行株式会社	<1,250万円>
※安田信託銀行株式会社	<1,250万円>
※オムロン株式会社	<1,005万円>
※岡秀株式会社	<1,000万円>
※中央信託銀行株式会社	<550万円>
※任天堂株式会社	<350万円>
※株式会社一保堂茶舗	<230万円>
※財団法人伝統文化保存協会	<200万円>
※京阪コンクリート株式会社	<55万円>
※株式会社灰孝本店	<51万円>
株式会社モリタ製作所	<50万円>

〔普通会員〕

※丸布株式会社	<47万円>
※株式会社鶴屋吉信	<37万円>
※山田繊維株式会社	<35万8千円>
※株式会社八千代	<34万円>
※旅館松葉亭	<27万円>
※株式会社西陣まいづる	<22万円>
※土屋便利堂	<18万円>
※株式会社蝸牛園曾根	<16万2千円>
※株式会社土井志ば漬本舗	<16万円>
※福寿ふるさと展有志者	<15万9百7拾1円>
※泰生織物株式会社	<14万円>
※ヤマカワ株式会社	<12万8千円>
※日産株式会社	<12万円>
※丸永織物株式会社	<11万円>
※上田善株式会社	<10万3千円>

〔賛助員〕

※株式会社サカノシタ	<8万5千円>
※株式会社京扇堂	<8万円>
※トクデン株式会社	<7万5千円>
※東邦炭素工業株式会社	<6万円>
※株式会社岩佐商店	<5万5千円>
※株式会社ギオン福住	<5万円>
※向井石油株式会社	<4万2千円>
※平井株式会社	<4万円>
※明和管工業株式会社	<3万3千円>
※日本シェーリング株式会社	<2万2千円>
第二野戦鉄道指令部第一回 親睦京都会	<5千円>

—個人の部—

〔特別会員〕

※伊 砂 利 彦	<190万円>
※橘 宗 義	<60万円>
※岩 佐 氏 熙	<37万円>
※丹 治 富 藏	<35万円>
※荒 川 昭 昭	<30万円>
※今 井 雅 治	<27万円>
※岡 本 保 止	<22万7千円>
※佐 藤 昭 三	<21万円>

※竹 村 實	<21万円>
※奈 良 博	<21万円>
※福 井 明	<20万6千9拾8円>
※柴 田 郎	<20万円>
※高 橋 男	<17万3千円>
※竹 内 孫兵衛	<17万円>
※上野山 志津子	<17万円>
※天 野 和 夫	<16万円>
※竹 村 幸 昭	<15万円>
※友 田 弘 雄	<13万7千円>
※田 尻 正 雄	<13万5千5百円>
※村 田 陶 苑	<13万円>
※三 原 慶三郎	<12万8千円>
※横 山 政 二	<12万円>
※上 田 長 雄	<12万円>
※安 田 孝 夫	<12万7千円>
※小 野 初 恵	<12万1千3百円>
※土 手 真 治	<12万円>
※大 嶋 真 一郎	<11万円>
※奥 崎 陽 卓	<11万円>
※竹 村 陽 子	<11万円>
※竹 崎 順 一	<10万5千円>
※加 藤 雅 一	<10万3千円>
※戸 田 紀 一	<10万1千円>
※柴 田 俊 治	<10万円>
※三 宅 康 雄	<10万円>
※山 田 岳 行	<10万円>
〔普通会員〕	
※増 田 勇 三	<8万8千円>
※岩 井 貞 幹	<8万6千円>
※甲 斐 弘 晃	<8万5千円>
※辨 官 弘 晃	<7万8千円>
※奥 田 芳 男	<7万6千円>
※平 野 昭 多	<7万3千円>
※川 口 多 恵	<7万円>
※矢 野 芳 子	<6万9千5百円>
※山 崎 長三郎	<6万8千円>
※青 木 文 子	<6万5千円>
※金 井 利 夫	<5万7千円>
※遠 藤 伊之助	<5万6千円>
※平 野 和 彦	<5万5千5百円>
※小田嶋 弘 雄	<5万5千円>
※新 庄 英 雄	<5万5千円>
※原 満 寿子	<5万5千円>
※吉 村 武 雄	<5万5千円>
※内 田 和 正	<5万4千円>
※別 所 とみゑ	<5万3千円>
※上 田 真 一	<5万2千円>
※松 島 浩 子	<5万1千円>
※広 岡 一	<5万円>
※井 田 喜智郎	<4万8千円>
※駒 井 桂之助	<4万5千円>
※前 田 桂 之助	<4万4千円>
※松 岡 省 吾	<4万2千円>
※田 中 定 子	<4万1千円>
※西 原 寿 子	<4万円>
※堀 内 祥 二	<4万円>
※小 松 好 子	<3万9千円>

事業のご案内

平成3年版

文化財カレンダーのお知らせ

テーマ「京の仏像」

平成3年版文化財カレンダーをテーマ「京の
仏像」と題して制作いたします。

京都には、日本の代表的な仏像彫刻が数多く
伝えられていますが、今回はそのなかでも特に、
教王護国寺（東寺）講堂の諸尊像、妙心寺三門
十六羅漢像、泉涌寺即成院二十五菩薩像など主
に群像をとりあげ掲載しております。

会員の皆様方で当カレンダーをご希望の方は、
下記の要領によりお申し込み下さい。

□規 格 B 3 サイズ・7 枚もの(表紙含む)
6 色刷カラー

□申込方法 文化財カレンダー申込及び住所、氏名（法人の場合は、法人名と代表者名）を記入のうえ、切手 360 円分（郵送料）を同封し、封書によりお申し込み下さい。

☐ 申込期限 12月10日まで

□申込先 〒606 京都市左京区岡崎最勝寺町
京都会館内

京都市文化観光資源保護財団 宛

⑨・申し込み資格は、当財団会員に限ります。

- ・申し込み部数は、1人につき1部とします。

- ・なお、申し込み多数の場合は、抽選となり

ますのでご了承下さい。

- ・カレンダーの発送は、12月上旬の予定です。

第56回 文化財特別参観

「西本願寺の美をたずねて」

今回は、京都市で催される文化財特別公開事業「西本願寺の美をたずねて」にご案内いたします。

会員の皆様で参観をご希望の方は、下記によりご参加下さい。

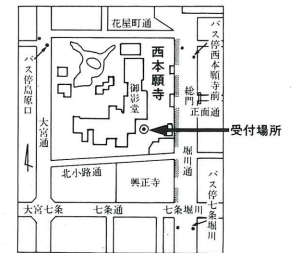
□日 時 12月8日(土)・9日(日) 2日間
午前9時30分・10時30分・11時30分・午後2時のいずれか(参観時間約1時間)

□場所 西本願寺（下京区堀川七条上る）

□参加資格 財団募金協力者（会員）とその家族1名（計2名まで）。16才以上。

☐参加費不用

□参加方法 参加されます方は、当会報の封筒
をご持参のうえ、参観希望時日に
直接受付までお越し下さい。なお、
各参観時間に定員がありますので、
次の時間帯にお願いすることがあ
ります。



※車での御来場はお断りします。

☐お問い合わせ 財団事務局

TEL(075)752-0235

寺山大小舟山梶佐垂盛伊小福渡西高山吉清石奥澤豊〔贊高並岸渡澤福中五澤内渡松横杉長萩細山徳林市余稻小奥環高竹平堀舞三吉米奥佐	鳴田鋸嶋木崎村村水田藤野島辺田廣本本水田西田島助員	順嘉綾八次ふ伸	重子	暎三夫子
策子一稔子和治孝子實子美子熙子司之代	木河本邊村崎山棲田藤辺下田岡原川下野川田生川野橋林井口原嶋川島野伯	准重英善道	康春明	代
郎子子恵彰勲子江子子肆郎実満子満み久子子郎子雄弥いま子保忠英枝進勝子	泰	美広善重	公百幸智	代
正熙幸嘉清日与	つ博寛明善千喜貴直せは治	美隆克	三合	美代

[illegible]

雄き裕江	み	司子	美子	勝子	亘雄	ミ子	エ子	子	子	江子	子	美子	藏榮忠	郎	雄藏	子	枝夫	枝冬	野き	代	郎	子	男	斌子	司	枝子	弥厚	男	美隆	男	一徹	
義と	澄き	修芳	春美	貞	増	ユ峰	茂美	浩久	光喬	裕和	順勝	す要雪	可忠	文清	時和	武美	清み	美宗	典敏	昭均	一榮	欣	立寛	一健								
庄橋田	原沢	尾田	井野	瀬尻	本田	留田	木谷	野前	井下	原辺	杉馬	羽下	田村	山	野原	谷田	良縄	川藤	保	村田	口田	本上	松田	瀬川	田仲							
新友石	小高	前稻	今宇	貴小	坂津	徳廣	八熊	植大	澤酒	竹林	吉渡	折相	仲上	木柴	田畑	林馬	三矢	山由	与音	近久	辻中	光林	山米	山井	植鎌	川北	西畑					

< 8 千円>
 < 8 千円>
 < 7 千円>
 < 7 千円>
 < 6 千百円>
 < 6 千円>
 < 6 千円>
 < 6 千円>
 < 6 千円>
 < 6 千円>
 < 6 千円>
 < 6 千円>
 < 6 千円>
 < 6 千円>
 < 5 千百円>
 < 5 千円>
 < 5 千円>
 < 5 千円>
 < 5 千円>
 < 5 千円>
 < 5 千円>
 < 5 千円>
 < 5 千円>
 < 4 千円>
 < 4 千円>
 < 4 千円>
 < 3 千円>
 < 3 千円>
 < 3 千円>
 < 3 千円>
 < 3 千円>
 < 3 千円>
 < 3 千円>
 < 3 千円>
 < 3 千円>
 < 3 千円>
 < 3 千円>
 < 3 千円>
 < 3 千円>
 < 2 千円>
 < 2 千円>
 < 2 千円>
 < 2 千円>
 < 2 千円>
 < 2 千円>
 < 2 千円>
 < 2 千円>
 < 2 千円>
 < 1 千百円>
 < 1 千円>
 < 1 千円>
 < 1 千円>
 < 1 千円>
 < 1 千円>
 < 1 千円>

※印は、追加寄付の篤志者。寄付金額は累計額。なお、平成2年2月20日以降の寄付者の方につきましては、紙面の都合により今後順次紹介させていただきますので御了承下さい。

第2回 京の歳時記展

- 期 間 平成3年2月2日(土)～26日(火)
- 場 所 京都市四条ギャラリー
(京都市下京区四条高倉東入
四条東洋ビル地下)
- 内 容 京都市域のなかでも豊かな自然と
古い歴史を伝えている洛北山間地
域の自然、すまい、暮らし、まっ
り行事を資料や写真、映像などを
とおしてその魅力を紹介します。
- 入 場 料 無 料

第21回 郷土芸能のつどい

- 日 時 平成3年3月2日(土)午後3時開演
- 会 場 京都会館第1ホール
(京都市左京区岡崎最勝寺町)
- 出演予定 小山郷六斎念仏・玄武やすらい花・
松ヶ崎題目踊・千本えんま堂大念
仏狂言・蹴鞠・時代祭維新勤王
隊・祇園芸妓手打式
- 入 場 料 前売券 1,300円
(座席指定)

1月中旬より京都市
内百貨店プレイガイ
ド、京都会館サービ
スセンター、京都市
観光案内所で発売

当日券 1,500円



出版物のご紹介

京都市文化財ブックス第5集

「京都の庭園」

—遺跡にみる平安時代の庭園—

京都市文化財ブックス第5集「京都の庭園—
遺跡にみる平安時代の庭園—」(A4版・80頁)
が京都市から発行されました。

平安時代の庭園の概要を紹介し、写真や図面
を急用して各庭園の特徴などがわかりやすく解
説されています。

会員の皆様でご希望の方は、当財団事務局に
て1部1,000円で頒布しております。

なお、郵送をご希望の方は、送料として別に
切手260円分を同封のうえ、現金書留にてお申し
込み下さい。



編集後記

毎年11月1日～30日の1カ月間は文化財の愛
護月間です。この間、文化財にふれあう機会も
多いかと存じます。京都には、国や府、市の指
定文化財以外にも貴重な文化財が数多くありま
す。財団では、これら未指定文化財の保護に取り
組んでいます。今後さらに充実した保護事業
をおこなっていくためには、一人でも多くの
人達に基金へのご協力を呼びかけていき、京都
の文化財をまもる機運を高めていかなければな
りません。

会員の皆様におかれましても、ぜひこの機会
に当財団への参加をまわりの方々にも呼びかけ
ていただきますようお願い申し上げます。

—守ろう人権 なくそう差別—